

## 【論説文】＝筆者の見解・説明

**※全ての答えは文章中にある！ ※「題名」もみましょう！**

【目標：15分】

### ① 逆接の接続詞をチェック 【逆説】のあとに筆者の主張

逆接の接続詞：しかし、だが、けれども、ところが、でも など…

説明文のよくあるパターン

今まで○○だった → しかし → 現在は、△△である。

一般的には… → けれども → 実際は、～～である。

重要なのは、逆接のあと。接続詞にチェックを入れ、筆者の主張が顕れている逆接のあとに線を引こう。

### ② 説明の接続詞をチェック 筆者の主張→【言い換え】→主張の説明(理由)

「要約説明(言い換え)」「例示」に注目すると良いでしょう。

要約説明(言い換え)の接続詞：つまり、要するに、このように、すなわち

例示の接続詞：例えば、いわば

要約説明の接続詞は、抽象化を行い、例示の接続詞は具体化を行います。前者は具体的な事実によって広がった話を抽象化して、筆者の主張としてまとめる働きがあり、後者は抽象的なことを分かりやすくするために具体例を使って説明がなされます。

### ③ 理由を説明している部分に注目 【順接】の前に原因・理由が書かれている

説明的文章とは筆者の主張や知識を説明していくものであり、その主張は根拠がなければ説得力がないものとなってしまいます。そのため、主張は根拠・理由とセットになって展開されていくことになります。

また、説明的文章の問題でもっとも問われることが多い設問は「理由を答えなさい」というものです。文章中の理由・原因・因果関係を示す言葉に注目していけば、そこが問題を解くときのヒントになるはずです。

「～から、～ため」などの理由を述べる言葉

「なぜなら」という理由説明の接続詞

「だから、したがって」などの順接の接続詞

#### ④ 強調語に注目 筆者が強く伝えたいところ

筆者は基本的に何かを伝えようとして文章を書いているので、強く伝えたい部分ではこの強調語を使用することが多く、読み手にここぞと訴えかける書き方となっています。

＜強調語の例＞

～が重要である。～は必要だ。～こそ…である。～…だ。

～にちがいない。大切なことは～ 大事なことは～ 忘れてはならないことは～

#### ⑤ ナンバリングに注目

説明的文章では、伝えたいことを項目立てして分かりやすく伝えることがあります。ナンバリングによって説明されている各項目の中心文に注目し、線を引いておくと良いでしょう。

- ・第一に、第二に、第三に、
- ・まず、次に、最後に、
- ・一つは、もう一つは、

#### ⑥ 問題提起(問いかけ)における「問い」と「答え」に注目

説明的文章においては、主張やテーマを分かりやすくするために、筆者が読み手に対して問いかけ、それに答えていく形で論理を展開させていくことがあります。この場合、問いかけている内容と答えがそのまま筆者の主張の中心となってくるため、双方に注目しておくことで主張の大意が捉えやすくなります。

(例)

＜問いかけ＞情報の洪水の中で生きていくしかないならば、我々には、一体何ができるのであろうか。

＜答え＞一つの可能性は、「体験」の世界を見直して見ることである。人間は、自らの経験の中に、他人の体験を取り入れることができる。我々の「想像力」は、他人のどんな経験にも乗り移り、どこにでも自由に動いてゆくことができるのだ。(中略)それを押し返すためには、＜答え＞それぞれの人間が何がしかの「体験」を蓄積することこそが大事なのである。

#### ⑦ 否定表現「ではなく」に注目

逆接の接続詞に近い働きをする言葉に、「～ではなく」というものがあります。これに注目しておくことで解ける問題が劇的に増えます。説明文は一般論や前置きをしておきながらその内容を否定して、自分の主張を繰り返し広げていく書き方が一般的なので、「～ではなく」の後に書いてあることが非常に重要です。

[文章 a]ではなく、[文章 b]。……とあった場合、文章 b に筆者の主張が集中する。

## ⑧ 分割法

文章の内容と合致していれば○ 文章の内容とズレていた時は× 少し微妙で判断にまよう時は△  
※上記のような感じでつけていきます。その上で、×がないものが正解に近いと考えて、絞り込んでいきます。二択になればあとは△の数で比べるか、再度読み込んでいけば正解にたどり着いていくが増えていきます。

## ⑨ “繰り返し出てくる言葉”と“その言葉と同じ意味や似ている言葉”

何度も繰り返し出てくる言葉は、筆者が大切だと考えて読者に伝えたい言葉、この文章の“キーワード”です。さらに、キーワードを“キーワードと同じ意味の言葉や似た言葉”＝類義語で言いかえて強調することで、筆者の考えを読者に強く印象付けて伝えようとしています。“キーワード”と“類義語”が筆者の言いたいことの中心

## ⑩ 解き方

(1) 不正解のパターンは、5つ！ 必ず2つに絞る

- ・「決めつける言葉」が入っているもの
- ・内容が足りてないもの
- ・内容がズレているもの
- ・内容が逆のもの
- ・内容と関係ないもの

・必ず・最も・唯一・絶対・常に・まったく・すべて・全部

こんな表現が選ばれる文(選択肢)の中に入っていたら、要注意！

こんな言い過ぎ、おおげさ、わざとらしい表現になっていけば、不正解！

(2) 指示語問題の解き方

文章読解問題でよく出る指示語(「これ」「この」「こう」「こんな」「それ」「その」「そう」「そんな」等)が指している内容を答える問題の解き方で絶対におさえておくべきポイントは、以下のたった2つです。

① 指示語の前からさかのぼって探す。

→ 指している内容は基本的に前にあるから前からさかのぼって探します。

ときどき、指示語の後に指す内容があることもあるので注意しておけば、この①は問題ないでしょう。

② 見つけたら指示語と入れ替えて確認する。

→ 指す内容の候補を見つけたら、指示語と入れ替えて(代入して)みます。意味や(文法的な)つながりを確認すれば、正しいかどうかだいたい分かります。こ

### (3) 問いの文末形式

- ・記号選択型→答えの個数や「適切でないもの」「ふさわしくないもの」といった条件に注意しましょう。
- ・書き抜き・抜き出し型→本文中の答えの該当箇所を一字一句変えずにそのまま書き写します。
- ・文章中の言葉を使って型→「ほとんど抜き出して、少し変えたり、言葉を補うだけ」
- ・ノーマル型(答えなさい、説明しなさい、書きなさい等)
  - どんな気持ちですか? → 「～という気持ち(です)」
  - どういことですか? → 「～ということ(です)」
  - 何の、どういう点ですか? → 「…の、～という点(です)」

### (4) 筆者の主張や意見を見分けるポイント

「～と考えます。」「～と思います。」「～しましょう。」「～ではないでしょうか。」「～…だ。」「…です。」「～かもしれません。」などの文末表現に注目することです。

## 【補足】 接続詞まとめ 【接続詞】は大きく○で囲む

- ★順接(だから・したがって) → 前に述べた内容の結果
- ★逆説(しかし・だが) → 前の分と逆の内容
- ★言い換え(つまり・すなわち) → 前の内容を詳しく説明したり、言い換えたりしてまとめる
- ★理由(なぜなら、…というのは) → 前の内容の詳しい説明
  
- ・並列(また・ならびに) → 前の分の内容と同じ内容
- ・添加(そして・さらに・しかも) → 前の内容に後の文の内容を付け加える
- ・例示(例えば・いわば) → 例を示して、具体例をあげて説明
  
- ★転換(それでは、では、さて、ところで) → 前の事がらと話題・状況を変える。  
※この後の文が筆者の主張(特に「では、」「さて」)